

平成25年度奨学後援会 総会資料

学 校 の 概 況

平成25年5月12日

広島商船高等専門学校

目 次

学校の現況.....	1
学生教育.....	2
1．はじめに.....	2
2．高専教育の充実に向けた正課授業の取組み.....	2
学生支援.....	3
1．活動内容.....	3
学寮生活.....	4
1．はじめに.....	4
2．寮生の現状.....	4
3．今後の課題.....	4
広報活動.....	5
1．平成 24 年度の主な取組み.....	5
2．入学生の状況、情報の共有.....	5
進路指導 - 商船学科.....	6
1．進路の概況.....	6
2．近年の求人・求職傾向.....	6
3．進路指導.....	6
進路指導 - 電子制御工学科 -.....	7
1．進路の概況.....	7
2．最近の進路状況（4年間）.....	7
進路指導 - 流通情報工学科 -.....	8
1．進路指導（学科の取組み）.....	8
2．進路の概況.....	8
平成 2 4 年度 進路状況.....	9

学校の現況

校長 村上 定瞭

保護者の皆様には、如何お過ごしでしょうか。平素より本校の教育活動にご理解とご協力を頂き、厚く御礼を申し上げます。

昨年度も学生諸君が素晴らしい活躍をしました。全国高専体育大会では卓球部が男子団体、男子ダブルス及び男子シングルスで優勝し、一昨年度に続き連続2年、3冠を制しました。全国高専プログラムコンテストでは課題部門で作品「Live 部屋」が特別賞を受賞しました（流通情報工学科）。ロボットコンテストでは、中国地区大会でアイデア賞を受賞しました（電子制御工学科）。この素晴らしい栄光は日々の弛まぬ練習や努力の成果であり、指導教員及び関係学生に対し心よりのお祝いと敬意を表します。

ところで、最近の本校受験生の出身地は、地元である広島県大崎上島町・竹原市から広島県全域、さらに北は北海道地区から西は九州・沖縄地区まで広域化が急速に進行しています。これは、本校が全国レベルの学校として認知されつつあることと誠に喜ばしいことです。多数の遠隔地学生を受け入れるため、学生寮の充実に努めています。100人収容の新棟E棟の増設が認められ、平成23年4月に完成しました。さらにはA棟の改修も認められ、今年2月に完成しました。本校学生寮は全国高専の中では最大規模であり、学寮生を支援する体制は、寮務部（主事・主事補4名、学寮委員4名）、宿直教員3名（輪番）、常勤職員2名、非常勤職員4名で、これは全国高専の中で最も充実しています。

経済のグローバル化による国際競争の激化、東日本大震災と電力不足、米国・ヨーロッパ諸国の財政不安や日中関係の悪化などを背景として、国内企業の経営状況が厳しくなり、高校・大学の学生の就職が一段と厳しくなっています。しかし、本校学生の就職率は毎年100%で推移しており、全く心配はない状況です。昨年度も卒業（修了）生の内、就職希望者全員が就職しています。

今日の社会では、国際化・グローバル化が急速に進展し「基礎学力と創造技術」及び「社会常識や規範意識、コミュニケーション力やマネジメント力」が一層求められます。このような社会ニーズに対応できる人材を育成するため、本校では「丁寧な教育、手厚い学生支援、きめ細かい進路指導」を校是に掲げるとともに、時代の要請に応えた教育の内容・方法の改善に努めています。既に実施している電子制御工学科、流通情報工学科に続き、商船学科においても昨年度から新教育課程を導入しました。

また、JABEE教育プログラムを本年度からスタートしました。このプログラムにより、基礎学力と専門知識に加え、技術者としての素養を身につけ、創意工夫しながら知識・技術を活用できる資質・能力を有する人材の育成を目指します。

昨年度行われた高専機構の監事監査において、校是のもと学生中心の学校運営・教育研究活動に対して高い評価がなされ、また、「学生の身なりや挨拶がよく、キャンパスや学寮が本当に綺麗である」との感想がありました。

以上、本校活動の現況を述べました。保護者各位には本校への深いご理解を頂きますとともに、本校に在籍するご息やご息女が立派に成長できますよう厚いご協力とご支援を重ねてお願い申し上げます。

学生教育

教務主事 松島 勇雄

1. はじめに

高専教育は5年間の一貫教育を通じて、実践的な技術者を育成する教育制度です。本校は社会に役立つ人材に育成するための教育を行っております。

高専教育の特徴として、技能・技術等の専門知識を修得するための正課教育（授業、実験実習他）と社会性を養うための課外活動（クラブ活動他）の双方をバランスよく配置できる教育環境です。このような高専教育の教育制度は日本では珍しい制度で、最近注目されています。高専では、恵まれた施設・設備と少人数教育に良質な、きめ細かい教育を提供できる環境です。

本校は「丁寧な教育、手厚い学生支援、きめ細かい進路指導」という方針のもとに、クラブ活動、学寮を含めた人間教育を行います。卒業後は、企業で必要とする技能・技術に裏打ちされた専門知識と高い人間力を備えた社会人として活躍できるよう期待されています。

2. 高専教育の充実に向けた正課授業の取組み

近年本校の入学志願者は順調に推移しています。そのような状況において、学生の学力格差、学習意欲の低下など多様な学生に対する教育が求められています。ここでは本校が行っている正課授業に関係した取組みについて紹介します。

(1) 学年末の特別日課と単位追認期間

学年末試験終了後に試験の採点確認をして成績評価を学生に説明します。また、学年末試験で不認定科目を持った学生で、留年生（原級留置者）以外は1週間程度の期間で追認を行います。

(2) JABEE教育の導入

平成24年度より、国際的に認定されている教育（JABEE）の仕組みを4年生以下について導入します。最も大きな変化は成績評価の認定点が60点になることです。これまでより、認定点が上がったことにより、不認定者が多くなることの無いように細心の注意をして進めていきます。

(3) 混合学級によるクラス編成

今年度は、1、2年生が混合学級です。3年生以上は専門学科のクラス編成となります。混合学級は概ね学生には好評であり、異なる専門の同級生との交流他を通じて他者の視点を培うことは社会人教育の基盤となっています。

(4) 低学年教育

本校では徳育教育が重要であるとの認識のもとに、平成24年度から2年生に人間力の教育として、規範意識の醸成のための時間を設けます。また、情報化社会で問題となっているネットワーク・エチケットについても時間を設けて教育していきます。また低学年では、主に学習の仕方、専門分野の魅力を紹介して、動機付けの取組みを行っています。

(5) 習熟度クラス編成・少人数教育（1年～3年）英語については1学年を習熟度別に3段階に分けて、下位のグループはさらに2分割して総計4クラス編成で授業を行っています。数学については3年生の学生数が多いことから習熟度別に5クラスに分けて授業を行っています。

(6) 授業参観と公開授業

本校の授業はいつでも参観できるようになっています。校長、教務主事をはじめ、それぞれの教員が自由に参観して、授業改善の工夫への参考としています。また、数名の教員の公開授業を行い、反省会を行うなどの授業改善を行っています。

学生支援

学生主事 上杉 鉛一

1. 活動内容

(1) 就学支援

本校では、入学金や授業料の免除、各種奨学金の案内や手続き等について、各教室や1階エレベータ横の掲示板に張り出すとともに電子掲示板で学生たちに案内しています。

申請等手続きが必要な場合は、掲示されましたら学生係へ行き必要な書類等を受け取り、記入の上期限内に提出するようにお願いいたします。

(2) 学生会活動支援

学生たちの自治組織として、学生会があります。会長をはじめとする役員を中心として、一緒になり、商船祭などの学校行事に取り組んでいます。また、皆さんから集めました学生会費の予算を決定するなどの活動をしています。学生会の活動や商船祭のテーマなどその週に決まった内容を学生会新聞としてまとめ、各クラスや校内の掲示板に毎週水曜日に掲示するようにしています。

学生会の最大の行事である商船祭には、一昨年度一般の来場者が楽しむイベントや展示が少ないとの意見が寄せられました。そのため昨年度は一般の方を対象に大崎上島の特産品が当たる抽選大会を行い、その中で保護者の方にも特産品が当たり、喜んでいただきました。

今年度も引き続き行う予定であり、来場した一般の大人だけでなく、小中学生も楽しく参加できるような教室でのイベントも考えているところです。

(3) 課外活動支援

学生たちの心身の健全な発達のために16の体育系のクラブ、同好会、12の文化系のクラブ、同好会が放課後を中心に活動しています。全国高専体育大会で優勝した卓球部をはじめ多くの体育系クラブが全国高専大会に出場しました。また3年生以下が参加する高体連の大会でも多くのクラブが地区予選を勝ち抜いて、県大会出場を果たしています。文化部においても書道会が「聞き取り甲子園」に出場するなど、多くのクラブがそれぞれの場で活躍しています。その活動を援助するために、学生会の会計が中心となり、各クラブで必要な物品を購入するための予算の配分を決定しています。

(4) 交通安全指導

朝の登校の際には、通学路に立ち学生たちの安全を守るため、また地域からの信頼を得るために、交通安全指導をしています。特に並列運転や二人乗りをしないこと、一旦停止などの交通規則を守り、事故に遭わないように指導しています。昨年度より、自転車による雨天時の傘差し運転をしないよう、特に注意しています。これは視界を狭めるだけでなく、自動車等に引っかかりやすくなり、大変危険ですので、自転車で通学するお子さんには必ずカッパを着て登校するようにご家庭でもご指導をお願いします。

(5) その他の規範意識を高める支援

本校の教育目標の1は「豊かな心、生きる力、規範意識の育成」とありますが、校内での窃盗が今だにあることが実情です。人のものを盗ることはもちろん犯罪ですが、自分のものは自分で守る意識も大切になっています。必要のない貴重品は持ってこない、自転車には施錠するといった被害者にならない方策を実行するように学校でも指導していますが、ご家庭のご協力もお願いします。

また「人は見た目が8割」とも言います。服装や身なりを見て、その人の中身を考える人は多いものです。本校の学生が一人でもシャツを出したり、ネクタイを緩めたりしただけでいい服装をしたり、髪を染めたり、ピアスをするなどの格好をすると、「広島商船の学生は」という風に、全学生を否定するような声を聞くことにもつながります。多くの学生はこのような服装や格好はしていませんが、一部の学生のために全員が悪く見られることがあるのが実情です。一人一人がこのことを自覚して、学外でも行動するように学校だけでなく、ご家庭でもご指導をお願いします。

学寮生活

寮務主事 吉田 哲哉

1. はじめに

4月の新寮生107名(1年生男子89名、1年生女子15名、3年生留学生1名、4年生編入生2名)の入寮にともなって、4月の寮生数は、男子382名、女子52名の436名(1年生104名、2年生104名、3年生88名、4年生93名、5年生45名、専攻科生2名)となり、全学生の約6割が寮生となりました。下の表に本校学生寮の収容定員を示します。この表からわかるように、寮の定員は男子415名、女子66名の合計481名です。しかしながら、居室として使用できない部屋もあるため、現在受入可能な寮生数は、男子25名、女子12名で、寮はほぼ満杯状態になっています。このことをまず報告させていただきます。

昨年度は1棟の改修が行われ、寮生の生活環境はかなり改善されています。また、奨学後援会のご協力もいただき、寮内の公共性のある場所への防犯カメラの設置を順次進めていくことになり、1棟に防犯カメラを設置しました。今後も順次設置を進めていきます

次に、昨年度の取組みを総括する意味で、寮生の現状を報告させていただきます。

表 学生寮の収容定員

年度	男子					女子	総計
	1棟	3棟	4棟	5棟	男子計	2棟	
2009(H21)以前	34	151	96	0	281	66	347
2010(H22)	68	151	96	0	315	66	381
2011(H23)～	68	151	96	100	415	66	481

2. 寮生の現状

寮生の生活は、生活環境が整備され寮生会活動も活発になり、随分落ち着いてきたように思います。

(1) 改善された事項

暴力、飲酒、異性寮への立入・引入、ごみのポイ捨て、部屋の使い方、無届外泊・点呼不参・外泊カード忘れ(女子のみ)、喫煙(未だに喫煙者はいるが少数)、公共物破損行為、深夜徘徊(フェンス設置効果)、病気以外の授業への遅刻・欠席、禁止物品の持ち込み及び使用、寮内における散髪、廊下への物出し、寮費・食費等の滞納などが挙げられます。

(2) 改善されない事項

窃盗(一時に比べれば減少したが、まだなくなる)、その他の迷惑行為(音楽等の騒音、当番・掃除への不参加、洗濯物の長時間放置、自転車の通路放置など)などが挙げられます。

3. 今後の課題

(1) 寮生指導

比較的うまく行っている点・行きはじめた点につきましては、これをしっかり継続していきたいと思います。しかしながら、なかなか指導を聞いていただけない点については、これまで以上に粘り強い取組みをしていきます。また、ここ数年低学年の問題行動が目立つようになってきました。今後も、基本的な生活習慣を含めて、今まで以上にきめ細かい指導が必要になってくるものと思います。

(2) 新たな課題

次の3点については、今後十分検討していきます。交通安全教育、女子寮の整備について、入寮希望者が定員を超えた場合の対策。

広報活動

広報主事 水井真治

1. 平成 24 年度の主な取り組み

1 年間を通じて次のような主要な活動を行いました。

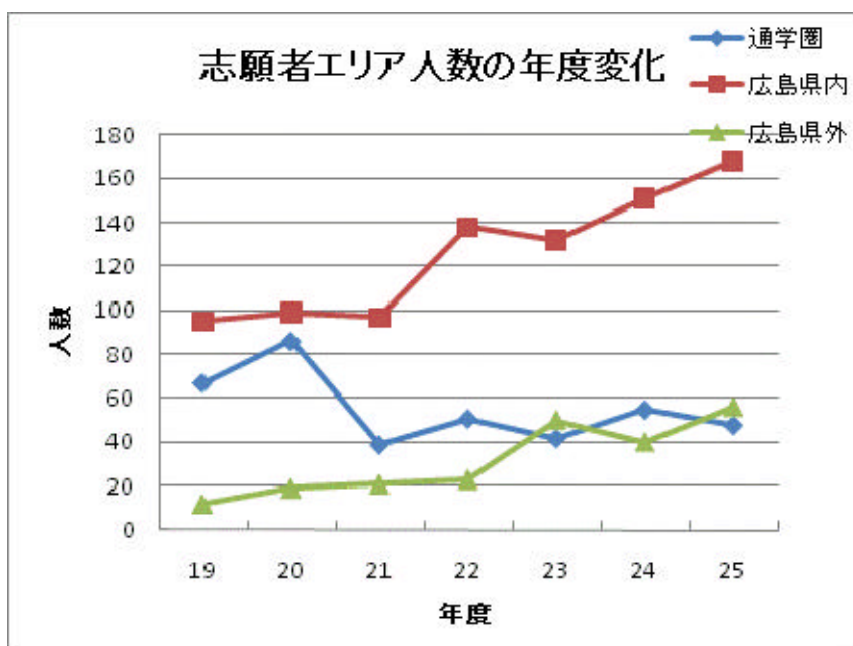
- ・ 4 月 1 年生アンケート調査を実施し、広報活動や学生指導に役立てました。大崎上島中学校の宿泊研修（本校若潮会館に宿泊）に協力しました。
- ・ 6 月 進路説明会（広島メルパルクで開催，25 校参加）を開催。呉・米子高専と 3 高専連携の広報活動を福山市で実施。ニュースレター（1 号）を発刊しました。
- ・ 7 月 商船高専合同説明会（東京、神戸、広島）に参加。広島丸の体験航海（3 回）を実施しました。海フェスタ（尾道）に参加し、広島丸に 2、000 名を超える来場者を迎えました。
- ・ 8 月 公開講座（2 回）、全教員による中学校訪問、オープンスクール（第 1 回）を実施しました。
- ・ 9 月 県内中学校からの要望にこたえ、出前授業や進路説明会に参加しました。
- ・ 10 月 帆船フェスタ 2012 広島、呉エコフェスタに参加しました。ニュースレター（2 号）を発刊しました。オープンスクール（第 2 回）を実施しました。
- ・ 11 月 フェスティバル江田島に参加しました。
- ・ 12 月～オープンスクール等行事に参加した中学生の分析を行いました。

2. 入学生の状況、情報の共有

今年の志願者は 272 名になり、昨年から 26 名の増加がありました。通学圏の志願者は一定数を確保できていますが、生徒数の減少が予想され、今後、その影響から近隣志願者が減少していくものと予想されます。

入寮学生数が増加し、ますます学生寮の重要度が増すとともに、低学年の担任、学生支援室、寮関係教職員と連携した活動が重要になってきます。

広報チームは平成 24 年度から 1 年生アンケートなどの結果を各部門に提供し、情報共有を図る取組を行い、広報だけでなく学生指導等にも利用できるように考えています。



今年度の取り組み

- (1) 中学校（中学校教諭）との連携強化
- (2) 教育コーディネータ（特命教授）の適正配置
- (3) 広島県東部地区への広報活動強化
- (4) 校友会と連携した広報活動（県外志願者の増加）

進路指導 - 商船学科

商船学科 就職担当 河村 義顕、中島 邦廣

1. 進路の概況

図1は商船学科に在籍する学生の近年における就職傾向を示しています。航海コースでは平均して5割が海上職、2割が運輸関係の陸上職、残り3割が進学となっており、機関コースでは5割が海上職、3割が製造業等の陸上職、残り2割が進学となっております。なお、平成25年度に未定の学生が多い理由ですが、本校の専攻科または企業の採用試験の受験準備をしている学生も含むため、統計上は多くなっております。

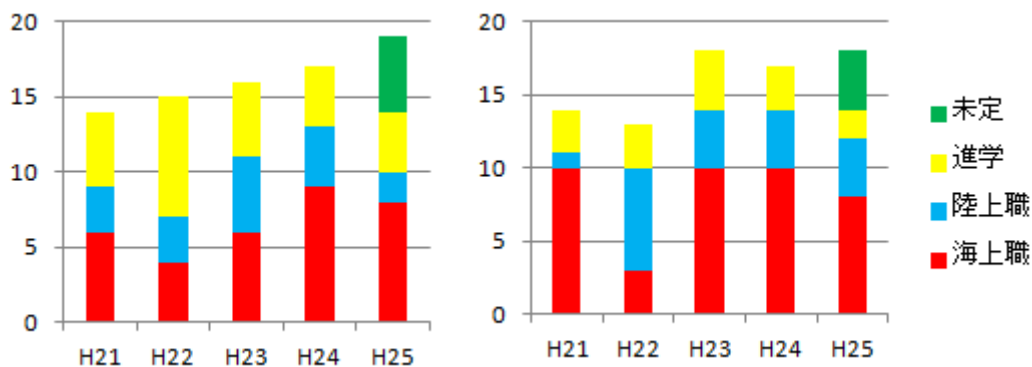


図1 近年の就職傾向 (左 航海コース 右 機関コース)

2. 近年の求人・求職傾向

近年の求人の傾向としましては、外航船社では新3級制度による一般大学からの採用、内航船社においても2級海技士の筆記試験合格を入社条件としている会社も多いため、よりレベルの高い資質を求められています。また、特に海上職は早期退職者が増加していることもあり、学生に業務内容や社会人としての責任感はもちろんですが、協調性や社会性などのコミュニケーション能力が求められる傾向にあります。

年度によって学生の志向についてですが、外航を目指す学生は各年度で一定数存在しますが、全体的には数ヶ月にわたる乗船を求められる船社より、数週間オーダーの短期航海を好む傾向にあります。そのため、全体的に外航よりも内航船社に興味を示す学生が増加している傾向にあります。

これらの求人・求職状況に対応するため、商船学科ではカリキュラムの再編や補習の実施、個別指導に時間を費やし、学生の資質向上に努めております。

3. 進路指導

進路指導は企業と学生のミスマッチを防ぐため、3年次では業種や業界の情報提供を行い、就職をイメージさせるところから始めています。4年次においては、会社訪問及びセミナーへの参加を促し、それと平行して国家試験受験の支援を行うなど、就職に関する情報入手方法と自己能力の開発指導をしております。また、近年の学生の弱点である履歴書の書き方のコツや面接時の対応などについては、個別指導を行っております。

基本的には、自分が希望する業界をある程度絞り込んでから自己分析を行い、それにマッチした会社を絞り込むようにしておりますが、学生が希望しそうな会社へ赴き、会社が求める人物像や資質と受験を希望する学生の情報交換を行い、学生の就職活動を側面から支援しております。

進路指導 - 電子制御工学科 -

電子制御工学科 就職担当 藤富 信之

1. 進路の概況

進路選択において、求人状況も若干ではありますが減少傾向がみられるとても厳しい社会状況ではありますが、平成24年度も学生達の努力の結果、卒業生全員のうち4名が進学し、26名が就職しました。個別の平成24年度進路状況については9ページに記載しておりますので参照ください。就職者は、エンジニアとして機械、電気、情報、制御等の専門的な技術の仕事につきます。

本年度の平成25年度のクラス人数37名のうち、進学希望者が8名、就職希望者が29名となっています。本年度につきましても、昨年と変わらず求人数の増加は望めない中での厳しい就職活動となっていますが、とくに、近道はなく面接試験や適性試験についてできる限りの準備と努力をして望むよう指導しています。

2. 最近の進路状況(4年間)

(1) 就職

表1に過去4年間の平成21から平成24年までの卒業生の主な進路先を示しています。卒業生の約4割は製造業に就職し、工場の生産ラインの設計や保守・管理などの仕事をしています。約4割はサービス業で、エレベータや冷凍空調機、OA機器などのメンテナンスなどの仕事をしています。運輸・通信分野にも約1割が就職し、運輸部門では電気設備の保守点検、通信部門では携帯電話やネットワーク関連のソフト開発などの仕事をしています。また、電力会社へも就職しています。約4割の卒業生が、中国地区で働いています。

(2) 進学

大学等への進学者の割合は1割程度で、進学先としては、豊橋・長岡の両技術科学大学への進学がほとんどです。専攻科が設置されてからは専攻科へ進学する学生も多数います。

表1 平成21・22・23・24年度 卒業生の主な進路先

内定進路先		人数	内定進路先		人数
アオハタグループ		1	デルタ工業		1
アズビル(山武)		1	日本オーチスエレベータ		1
アルメックス		2	日本自動ドア		2
出光興産		6	日本たばこ		2
NTTコミュニケーションズ		2	日立ビルシステム		3
エネルギーコミュニケーションズ		1	富士通九州システムズ		1
技研電子		4	ピューテック		2
KDDIエンジニアリング		4	フジテック		1
コベルコ建機エンジニアリング		4	古川製作所		2
JR東海		1	前川製作所		2
JR西日本		1	メタウォーター		2
JFEスチール		2	横川フィルドエンジニアリングサービス		3
瀬戸内共同火力		2	三浦工業		1
綜警情報システム		2	三菱電機姫路製作所		1
ダイキン工業		2	ユニチカ		1
中国電力		4	LIXIL(INAX)		1
東芝メディカルシステムズ		3	リコー		3
ディスコ		1	リコーテクノシステムズ		2
東芝エレベータ		1	レンゴー		1
豊橋技術科学大学		3	長岡技術科学大学		1
広島商船高専・専攻科		7	琉球大学		

進路指導 - 流通情報工学科 -

流通情報工学科 進路指導担当 岡村 修司

1. 進路指導（学科の取り組み）

従来の5年学級担任に加えて1名の進路指導担当者を置き学科内で連携を取りながら指導にあたっています。さて、採用試験で特筆すべき点は基礎学力や一般常識もさることながら個人の性格(ストレス耐性やバイタリティ)を従来にも増して注視している点です。そのため、企業と学生とのミスマッチがないよう個別対応に相当の時間を割いています。

また、学科教員全員による企業割り振り体制を構築し始動を開始しました。具体的には、各教員が10社程度の企業を担当し、通年にわたり企業訪問などの情報交換を行い、連絡を密にすることにより、信頼関係を構築しています。

特に、平成25年度の学生よりコース制(流通・ビジネスコース、情報コースの2つ)を導入しているため、それぞれのコースの専攻内容に応じた企業との連携につとめています。また、学生及び保護者の地元企業への就職ニーズが高いこと、学生を地元にかえす(地域貢献)の2つの観点から地元企業との交流も深めています。

学生の就職方法には、学校推薦(校長、教授推薦)、一般応募、の2種類がありますが、地元志向および業種の多様性から多学科に比べて一般応募を選択する学生も多くいます。このため、就業意識を高める試みとして、低学年時より就職講義の導入、4年生全員インターンシップに参加、5年生による就職体験談、OB・OG講演会、職業適性試験・基礎能力試験の実施、などの多岐にわたる就職支援プログラムを実施しています。

2. 進路の概況

平成24年度の卒業生は、27名(男子15名、女子12名)です。この内、就職・進学希望者は、26名であり、就職17名、進学9名(進学率:35%)となっています。

就職先の内訳については、図1に示すように、情報処理技術者が半数以上を占めており、物流管理者18%、サービス業23%、事務従業者6%となっています。企業の所在地別で見ると(図2)東京が圧倒的に多くなっていますが、次いで地元の広島にも何名かの学生が就職できています。図3に示すように、他学科に比べると就職内定の時期が遅くなっていますが、これは一般応募による選考の長期化と地元の企業の求人募集の立ち上がりが遅いことが要因と考えられます。しかしながら、最終的には地元企業への就職も含め内定率は100%に達しています。

進学者の内訳は、広島大学経済学部(1名)、滋賀大学経済学部(1名)、豊橋技科大学情報系(2名)、広島商船専攻科(4名)、保育系専門学校(1名)、であり経営・経済系の学科へも進学していることが特徴です。

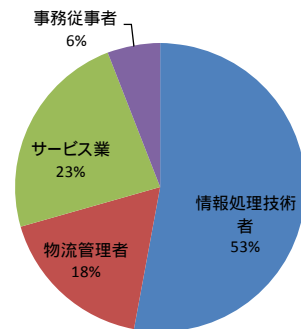


図1

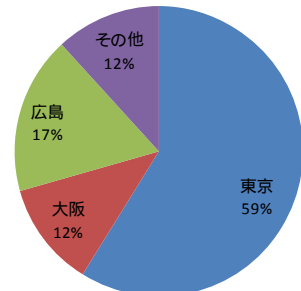


図2

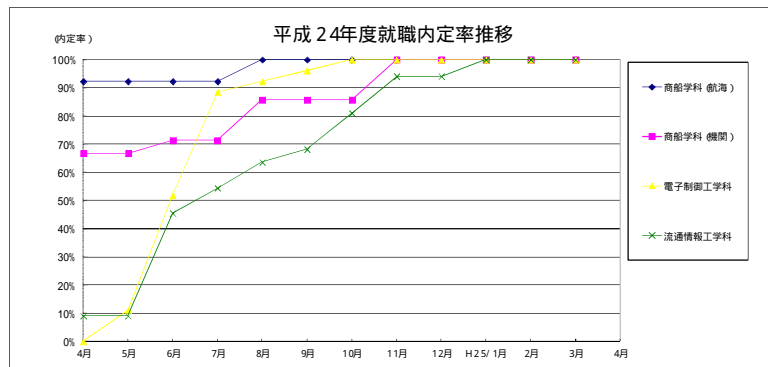


図3

平成24年度 進路状況

平成24年度卒業生 就職・進学先			平成25年4月現在
商船学科	電子制御工学科		流通情報工学科
本校専攻科	(株) エクス		広島大学経済学部
(株) ユニエックス	日本オーチス・エレベータ(株)		(株) フォーラムエンジニアリング
正和汽船(株)	琉球大学		広島商船専攻科
浪速タンカー(株)	横河フィールドエンジニアリングサービス(株)		富士通FSAS(株)
東京海洋大学	豊橋技術科学大学		滋賀大学
月星海運(株)	アズビル(株)		ヒューマンアカデミー 広島校
ダイトーコーポレーション(株)	東芝メディカルシステムズ(株)		日信ITフィールドサービス(株)
九州郵船(株)	(株) ディスコ		NTTネオメイド(株)
日本通運(株)	CTCシステムサービス(株)		双葉運輸(株)
鶴見サンマリンタンカー(株)	(株) 堀場テクノサービス		(株) 大和製罐
(株) ウィングマリタイムサービス	技研電子(株)		技研電子(株)
三豊運輸(株)	本校専攻科		トナミ運輸(株)
協栄マリンテクノロジー(株)	(株) アドウィン		豊橋技科大学
名門大洋フェリー(株)	日信電子サービス(株)		技研電子(株)
イースタンマリンシステム(株)	中国電力(株)		(株) フォーミュレーションI.T.S
ボルテック(株)	コバルド建機エンジニアリング(株)		かなわ水産
川崎汽船(株)	株式会社日立ビルシステム		国際計装(株)
泉汽船(株)	岩国医療センター 附属看護学校		横河フィールドエンジニアリング(株)
(株) 名門大洋フェリー	三興コントロール(株)		KCCS(株)
第一中央船舶(株)	技研電子(株)		(株) EBM
阪九フェリー(株)	KCCS Eビルエンジニアリング(株)		富士通(株)
広島ヤンマー商事(株)	出光興産(株)		NTTコミュニケーションズ ソリューション&エンジニアリング(株)
九州郵船(株)	(株) アルメックス		
第一テクノ(株)	(株) イクス		
(株) ウィングマリタイムサービス	ユニチカ(株)		
(株) ダイキエンジニアリング	NTTコム ソリューション&エンジニアリング(株)		
土生商船(株)	出光興産(株)		
神戸大学	KDDIエンジニアリング(株)		
三豊運輸(株)	三菱電機(株) 姫路製作所		
九州郵船(株)	東芝エレベータ(株)		